

7月17日(金)~8月18日(火)
「拵一井伊家伝来刀装選一」

大名家伝来の刀の拵(こしらえ)には、漆芸や彫金(ちようきん)などの技術の粋(すい)を集めた装飾が多く見られます。特に彦根藩井伊家の拵は、鞘塗(さやぬり)の技巧を凝らしたものに富み、全国的にも稀有(けう)な存在です。本展では、その中から選りすぐりの名品を公開します。

企画展

▲金平目地鞘細太刀拵

■7月15日(水)、同16日(木)は、展示替えのため、一部休室します。

常設展示「ほんものとの出会い」では、譜代大名筆頭・井伊家に伝来した名宝を中心に80点あまりを展示しています。

8月18日(火)まで
染付近江八景図敷瓦

鉄風炉の下に敷く板。表面に、近江八景(おうみはっけい)の図を鮮やかな藍色で描いています。

彦根藩の御用絵師でもあった狩野永岳(かのうえいがく)の下絵をもとに、中国の景德鎮窯(けいとくちんよう)の陶工(とうこう)・陶貞(とうてい)が制作した作品です。

常設展示の名品

▲染付近江八景図敷瓦

もつ1組は、正保4年(1647)に調えられたものです。写真の刀装と同様の形式であることから、おそらくこの刀装は、写真の作品を模して作られたのでしょう。

さて、古くから刀装にはさまざまな装飾が施さ

刀剣を収める鞘や柄、鐺などの外装を、刀装あるいは拵と呼びます。

彦根城博物館には、彦根藩井伊家伝来の刀装が100件以上収蔵されており、その多くは江戸時代後期に調えられたものとみられますが、中には、桃山時代から江戸時代前期にまで遡る作例がいくつか含まれています。

ここでは、このうちの2組の刀装を紹介いたします。

1組目は、写真の刀装です。鞘と柄に巻かれた鮫皮とに朱漆を塗り、鞘の末端には、渦巻きを表した金具を嵌めています。制作年は明確には分かりませんが、その作風から桃山時代あるいは江戸時代初期の制作と見られます。

▲朱漆塗巻鞘大小拵

朱漆塗の刀装

博物館からのメッセージ

第286回

写真の作品は、企画展「拵一井伊家伝来刀装選一」で7月17日(金)~8月18日(火)の期間、展示します(期間中無休)

【彦根城博物館学芸員 古幡昇子】

その一環として旧来の作品を参考に制作されたのかも知れません。

れてきました。桃山時代には、鞘を金や漆で彩り、柄に巻かれた鮫皮にも漆を塗るなど、色鮮やかな刀装が数多く登場しました。しかし、大坂の陣が終結すると、江戸幕府は刀剣や刀装の形式の統一を計ります。特に、江戸時代前期には、しばしば鞘の色や鐺の形に関する禁令が発せられ、元和9年(1623)や正保2年には、黄や朱の鞘、大鐺などの使用を禁止しています。

そうした中で、正保4年に朱漆塗の刀装が調えられたのはなぜなのでしょう。正保4年頃は、写真の刀装が制作された時代と異なり、大きな戦乱はありませんでした。また、先に幕府から禁令が出ていること、さらに幕府の中心で井伊家が活躍していたことを考えると、着用のために制作したとは考えにくい状況です。この頃、彦根藩では保管されている武器の状態を確認しており、修繕や新調を実施していたようです。正保の刀装も、その一環として旧来の作品を参考に制作された



彦根城の公開& 「ひこにゃん」の登場が再開!

彦根城では、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、休止していた天守など建物への入場を6月15日から再開しました。

お休みしていた「ひこにゃん」も、天守前や博物館(冠木門)での登場を6月15日から再開しています。

※ひこにゃんの登場場所は、天候などによって決定しますので、ひこにゃん公式サイトで随時ご確認ください。

ひこにゃん公式サイト▶



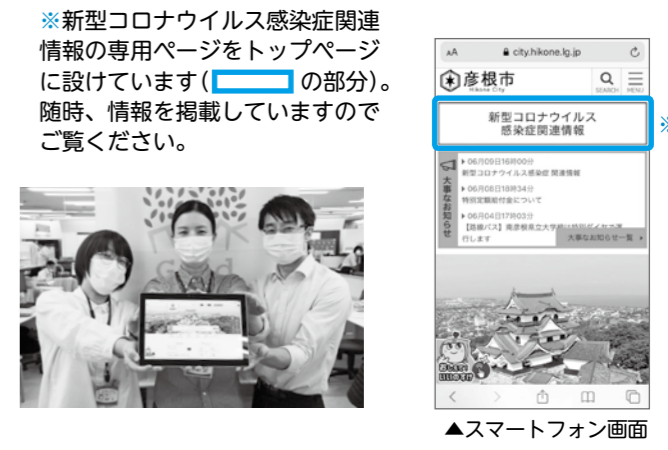
全国広報コンクールで彦根市のホームページが入賞しました

公益社団法人日本広報協会が主催する「令和2年全国広報コンクール」のウェブサイト部門(市部)で、本市のホームページが入賞しました。

「広報コンクール」では、毎年地方自治体の広報作品(広報紙・ウェブサイト・広報写真・広報企画・映像)について審査を行い、優秀団体を表彰しています。

彦根市ホームページは昨年の8月末にリニューアルし、デザインの刷新や情報を採りやすくするための機能の追加、子育て応援サイトや外国人定住者向けサイトの新設などを行いました。

今後も引き続き、市民の皆さんにとって親しみやすいホームページになるよう努めていきます。



※新型コロナウイルス感染症関連情報の専用ページをトップページに設けています(の部分)。随時、情報を掲載していますのでご覧ください。

